

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3610410502		
法人名	医療法人 鴻伸会		
事業所名	グループホーム 合歓の木		
所在地	徳島県阿南市新野町西馬場3-3		
自己評価作成日	平成24年8月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=36">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=36</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成24年10月23日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

法人全体で、自立と自律に向けてリハビリテーションに力を入れ取り組んでいる。利用者の加齢に伴う体力低下が否めないが、利用者の笑顔を目標にリハビリテーションの実施に努めている。心身ともに落ち着いた生活の場を提供するよう努めている。職員による、ゆとりある支援ができるよう職員の笑顔を目指し、職場環境を整えるよう努めている。職場独自の朝礼の推進により職員の倫理感を養い、意欲的な職員の育成にも取り組んでいる。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所は住宅街のなかに位置している。利用者の自立と自律に向け、積極的にリハビリテーションに取り組んでいる。職員は、利用者の希望の実現に向けて、日々の実践に努めている。また、毎日の朝礼に利用者も参加しており、一日を笑顔で始めることができるよう取り組んでいる。代表者や管理者、職員は、サービスの内容や課題についてつねに話しあってサービスの質の向上や改善に取り組んでいる。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念から事業所の理念を作り、日々のケアに取り組んでいる。	職員は、朝礼時に理念を確認しあっている。朝礼に利用者も参加している。利用者と職員は、“えがお満開”の方針にそって、毎日を笑顔でスタートすることができるよう努めている。また、申し送り時には、全職員で理念について話しあっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の舞踊会等のボランティアや祭りのみこしが寄ってくれる。幼稚園児も来てくれ踊りや歌等プレゼントを作ってくれたりして地域との交流をしている。	踊りや読み聞かせの地域ボランティアの来訪がある。また、歯科衛生士による口腔体操等の出張訪問を受け入れている。地域の保育所や幼稚園の子どもと交流する機会を設けている。地域のお祭りのときには神輿の来訪があるなど、地域住民と触れあう機会が多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の友人や家族の方の面会時には高齢者の方に向けても常日頃の経験を生かし援助の出来る事はしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、民生委員、公民館職員、地域包括センター職員等が参加する会議では利用者の日頃の状況やサービスの改善等に向けた取り組みへの協議が行われ会議での話しを職員間で話し合い日頃の支援に活かしている。	運営推進会議の際、事業所の取り組みなどについて報告を行っている。参加者から率直な意見を出してもらい、双方向的な会議となるよう努めている。話しあった内容は、全職員で共有してサービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター主催の勉強会に参加し、情報、意見交換をしている。市が主催する会議にも参加し情報交換したり、事業所での取り組みを伝えている。	職員は、市主催の会議や地域包括支援センターの研修会へ積極的に参加し情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中、玄関は施錠していない。利用者の所在をチェックし、その時の気分や様子を察知出来るよう留意している	日ごろから、全職員で身体拘束の弊害について話しあっている。利用者の様子を見守り、気持ちを察知することで、身体拘束をしないケアの実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	朝礼時、カンファレンス等を通じて虐待防止について話し合っている。毎朝「職場の教養」を読み、倫理への関心を持つようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	カンファレンス等で勉強し、必要時には家族への話し合いをするよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には文章により説明をし、なお、不安点があれば説明をしている。改定等がある場合は面会時に説明し納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置して意見などの把握に努めている、だされた要望に付いては管理者や主任が中心となって話し合いサービスの改善につなげている。	家族アンケートを実施したり、毎月、お便りを送付したりして、家族の意見や提案等の把握に努めている。また、家族の来訪時には積極的に声かけを行い、なんでも話すことのできる雰囲気づくりに留意している。意見箱も設置している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1年に1回は管理者と各職員が話しあう機会を設け3カ月に1回は個別に主任と各職員が話しあう機会を設けている。	代表者と管理者、職員は、日ごろから自由に話しあうことのできる関係を構築している。また、個別面談の機会も設けている。職員から出された意見や要望は、全職員で検討して運営面へ反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	積極的に外部研修にも参加できる機会を設け他の職場や他職種の人とTも話す機会を多く作り向上心を育てる努力をしている。年間を通じての個人目標を各人が掲げ達成することでやりがいにつなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は積極的に外部研修などに参加している。研修内容を発表する機会を設け全職員で内容を共有している。現場のケアの実践を職員同士で多角的にチェックしあうなどして。それに対し評価、助言等を行い能力に応じた教育に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	前年度は職場交流は出来なかったが、研修で習得した内容をカンファレンス等の機会ですべてで勉強し、質の向上への取り組みとしている。また、知り合った同業者と連絡をとり		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用までの段階で利用者本人に何度か会いに行き、話を聞くなどスムーズな利用が出来るような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの話も聞き、利用後もできるだけ多くの話し合いの機会をもち信頼関係を築けるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	経営者・ケアマネジャー等併設各部門が連携により、相談内容について利用者にあったサービス提供に心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	園芸や家事、ことわざ、四季の言葉、昭和初期の話など、楽しみながら学ばせていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	課じと共に支えて生けるよう努力している。可能な限りの面会、外泊・外出をしていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出時には利用者の自宅の近くにいたり、利用者の希望の場所にも行っている。友人や遊びに来て下さった方等が訪れやすいよう職員も一緒に話しをしたり、帰られる際には必ずまた来所していただけるようお願いしている。	外出した際には、利用者が以前住んでいた自宅や思い出の場所へ立ち寄り、家族の協力を得て、行きつけの美容院を利用したりしている。また、馴染みの知人や親戚の来訪時には、気兼ねなく話ができるよう配慮し、これまでの関係を継続することができるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士で食卓を囲んだり、2F・3Fの交流ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方には状態を聞きに面会に行ったり家族の方に話しを聞いたりしている。季節の便りも暑中見舞いや年賀状で関係を絶たないようにしている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思決定のできる人には希望や意向に沿うよう努めている。意思決定の出来ない方には家族の面会時に意向を聞いている。	職員は、利用者の自己決定を促すよう支援しており、利用者自身に毎日の洋服を選んでもらったり、散歩や買い物等の希望を聞いたりしている。自己決定が困難な利用者には、日ごろの行動や表情等から思いを汲みとるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の話しを聞いたり、家族の協力も得てセンター方式を記載することにより経過把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックを実施。担当者が毎日個別対話をもつようになっている。日頃と違う行動をしたり状態が変わった時には援助記録に細かく記載し、職員間で申し送りしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族からの要望を聞き、関係職員全員で介護計画の作成に反映させている。	関係者全員で、本人や家族の要望に基づきカンファレンスを行っている。日ごろの職員の気づきやアイデアを集約し、介護計画書を作成している。定期的にモニタリングを行い、利用者一人ひとりの現状に応じた介護計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	援助記録はできるだけ本人の言葉での記載に心がけている。申し送りノートに記録し見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービスなど通所、退院時に交流できるよう支援している。外来リハビリ、デイサービスのヨガ体操も利用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防には1年に1回、運営推進委員会議やボランティアの方の来所、地域のお祭り、運動会に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅療養支援診療所と連携して心身の状態把握をしている。	入居時の段階で、本人や家族と話しあって協力医療機関の受診を支援している。眼科や心療内科等の従来からのかかりつけ医は、家族の協力を得たうえで支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホーム担当看護師と毎日相談しながら支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医や協力医療機関である富士医院と連携し、入院先の医師と鼠男子情報交換している。(週1回)		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の方には入院時、書類により体調変化時の対応をあらかじめ相談し、体調が大きく変化した時はケアマネ、かかりつけ医、家族でもう一度相談する。体調の変化の見られる利用者にはその都度、相談している。看取りへの取り組みを家族に説明している。	重度化した場合のあり方に関する指針を作成している。入居時、家族に説明を行って同意を得ている。利用者の身体状況の変化に応じ、そのつど関係者間で話しあっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	随時実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議で依頼している。災害時の訓練も行っている。避難持ち出し袋を作り、入居者の緊急時対応の情報を持ちだし袋に入れている。	年2回、避難訓練を実施している。また、夜間を含む様々な災害を想定し、避難シュミレーションや通報訓練を行っている。地域の自主防災組織の一員として、地域の避難訓練にも参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉掛け、対応については個人の特徴等に合わせるようカンファレンスで取り上げるなどして努力している。記録書類は事務所で保管している。	本人が恥ずかしいと感じるような場面では、声かけや対応に細心の注意を払っている。職員は、つねに利用者の尊厳やプライバシーの確保について話しあっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の個別対応により自己決定の意思表示を見逃さないよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り利用者の自己決定を優先した支援をしているが、体調の許す限り、規則正しい共同生活に合わせてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毛染め、カットの支援をしている。毎日のおしゃれについても本人の好むものを選んでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員は同じ食卓で同じものを和やかに食べ食事を楽しんでいる。利用者の方と一緒に片付けや洗い物をしている。	同一法人の運営する他事業所で調理した食事を運び込んでいる。利用者に聞きとりを行ったり、残食の状況を見たりして、利用者の好みの把握や献立に取り入れている。利用者と職員は、同じテーブルを囲んで和やかに会話をしつつ食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の指導を受け、食事担当者を中心に食事量、水分量などチェックシートを活用している。刻み、とろみ食も提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けをし口腔ケアの援助をしている。夜間は義歯の方は本人の希望に合わせて消毒も兼ねて預かっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人に合わせてトイレへの声掛けをしている。	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して声かけを行い、トイレで気持ちよく排泄することができるようしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人個人に合わせて果物、乳製品等食品の工夫や散歩、体操等に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望やケア上で必要と判断される場合には、随時、部分浴や入浴の支援をし柔軟な対応をしている。車椅子生活の方にも個浴の支援をしている。	少なくとも2日に一回は入浴できるよう支援している。本人の希望や状況に応じて、部分浴やシャワーなどの支援を行っている。利用者一人ひとりが、ゆっくりと入浴を楽しむことができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別対応によりその日のリズムに気付くようにし、安心のある休息への援助に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の処方薬について勉強している。また、かかりつけ医、グループホーム担当看護師に相談し、支援してもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事手伝いなど好む仕事をみつけ作業出来るよう援助している。本人の趣味が活かせるよう作品を展示したり、応募等にも取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間を通して外出の機会を設けている。お接待などは地域の人と一緒に出かけている。	年間を通じて、季節の花見や買い物、コンサート、温泉等の外出の機会を設けている。また、利用者の希望に応じて、事業所周辺の散歩や買い物等へ出かけている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物に出かけたときには本人の状態に合わせて支払いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の状態に合わせて電話の利用をしている。年賀状も状態に合わせて出せるよう準備している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースの壁には手作りのカレンダーが掛けられている。思い出の写真や和歌の作品も飾られ落ち着いた空間となっている。また、野や庭の花を飾る事で季節感を感じられるようにしている。	リビング兼食堂のスペースは広くて明るい。過ごしやすい室温や採光等にも留意している。壁面には、手づくりの大きなカレンダーや利用者の作品、行事の写真等を飾っている。家庭的な雰囲気の中、利用者と職員が笑顔で会話を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内をソファーや食卓で気の合った人と一緒に利用できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人の好きなものを持って来てもらっている。寝具等も本人の習慣にあわせてものにしている。	利用者は、居室に使い慣れた家具や好みの品物を持ち込んでいる。利用者は、趣味の編み物や俳句の作品を飾っており、その人らしく過ごすことのできる部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベッドの種類は医療用、木製ベッド、たたみ等にしている。浴室等一部車椅子対応となっていない。		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			3階 実践状況	実践状況	実践状況
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念から事業所の理念を作り、日々のケアに取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の舞踊会等のボランティアや祭りのみこしが寄ってくれる、幼稚園児も来てくれ踊りや歌等プレゼントをつくってくれたりして地元地域の交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の友人や家族の方の面会時には高齢者の方に向けても常日頃の経験を生かし援助の出来る事はしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、民生委員、公民館職員、地域包括センター職員等が参加する会議では利用者の日頃の状況やサービスの改善等に向けた取り組みへの協議が行われ会議での話しを職員間で話し合い日頃の支援に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター主催の勉強会に参加し、情報、意見交換をしている。市が主催する会議にも参加し情報交換したり、事業所での取り組みを伝えている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中、玄関は施錠していない。利用者の所在をチェックし、その時の気分や様子を察知出来るよう留意している		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	朝礼時、カンファレンス等を通じて虐待防止について話し合っている。毎朝「職場の教養」を読み、倫理への関心を持つようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	3階	自己評価	実践状況	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況		実践状況	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	カンファレンス等で勉強し、必要時には家族への話し合いをするよう努めている。					
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には文章により説明をし、なお、不安点があれば説明をしている。改定等がある場合は面会時に説明し納得していただいている。					
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置して意見などの把握に努めている、だされた要望については管理者や主任が中心となって話し合いサービスの改善につなげている。					
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1年に1回は管理者と各職員が話しあう機会を設け3カ月に1回は個別に主任と各職員が話しあう機会を設けている。					
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	積極的に外部研修にも参加できる機会を設け他の職場や他職種の人とも話す機会を多く作り向上心を育てる努力をしている。年間を通じての個人目標を各人が掲げ達成することでやりがいにつなげている。					
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は積極的に外部研修などに参加している。研修内容を発表する機会を設け全職員で内容を共有している。現場のケアの実践を職員同士で多角的にチェックしあうなどしている。それに対し評価、助言等を行い能力に応じた教育に努めている。					
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	前年度は職場交流は出来なかったが、研修で習得した内容をカンファレンス等の機会ですべてで勉強し、質の向上への取り組みとしている。また、知り合った同業者と連絡をとり情報を共有している。					

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			3階 実践状況	実践状況	実践状況
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用までの段階で利用者本人に何度か会いに行き、話しを聞くなどスムーズな利用が出来るような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの話も聞き、利用後もできるだけ多くの話し合いの機会をもち信頼関係を築けるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	経営者・ケアマネジャー等併設各部門が連携により、相談内容について利用者にあったサービス提供に心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	園芸や家事、ことわざ、四季の言葉、季節の行事の土地柄による昔からの習わし、昭和初期の話など、楽しみながら学ばせていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と共に支えていけるよう努力している。可能な限りの面会、外泊・外出をしていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出時には利用者の自宅の近くにいたり、利用者の希望の場所にも行っている。友人や遊びに来て下さった方等が訪れやすいよう職員も一緒に話しをしたり帰られる際には必ずまた、来所していただけるようお願いしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士で食卓を囲んだり、2F・3Fの交流ができ、話しができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			3階 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方には、状態を聞きに出かけたり、家族の方に話を聞いたりしている。季節の便りも暑中見舞いや年賀状をだし関係を絶たないようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思決定のできる人には希望や意向に沿うよう努めている。意思決定の出来ない方には家族の面会時に意向を聞いたり、カンファレンスで職員それぞれが感じる思いを話し合い検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の話しや、家族の協力も得てセンター方式を記載することにより経過把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックを実施。担当者が毎日個別対話をもつようにしている。日頃と違う状態、行動をした時は援助記録に細かく記載、職員間で申し送りするようしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族からの要望を聞き、関係職員全員で介護計画の作成に反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	援助記録はできるだけ本人の言葉での記載に心がけている。申し送りノートに記録し見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービスなど通所、退院時に交流できるよう支援している。外来リハビリ、デイサービスのヨガ体操も利用している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			3階 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防には1年に1回、運営推進委員会議やボランティアの方の来所、地域のお祭り、運動会に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅療養支援診療所・歯科医と連携して心身の状態把握をしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホーム担当看護師とは毎日、及び在宅療養支援診療所看護師ともその都度相談しながら支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医や協力医療機関である富士医院と連携し(週1回)、入院時は入院先の医師と相談し情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の方には入所時、書類により体調変化時の対応をあらかじめ相談し看取りへの取り組みを家族に説明している。体調が大きく変化した時はケアマネ、かかりつけ医、家族でもう一度相談している。体調の変化の見られる利用者は、家族にその都度、状態説明し相談している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	随時実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議で協力を依頼している。災害時の訓練も行っている。避難持ち出し袋を作り、入居者の緊急時対応の情報を持ちだし袋に入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			3階 実践状況	実践状況	実践状況
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉掛け、対応については個人の特徴等に合わせるようカンファレンスで取り上げるなどとして努力している。記録書類は事務所内で保管している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の個別対応により本人の思いや希望を話しやすい馴染みの関係を作り、自己決定の意思表示を見逃さないよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り利用者の自己決定を優先した支援をしているが、体調の許す限り、規則正しい共同生活に合わせてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毛染め、カットの支援をしている。毎日のおしゃれについても本人の好むものを選んでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員は同じ食卓で同じものを和やかに食べ食事を楽しんでいる。利用者の方と一緒に片付けや洗い物をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の指導を受け、食事担当者を中心に食事量、水分量などチェックシートを活用している。その人の状態にあった食事や刻み、とろみ食も提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けをし口腔ケアの援助をしている。夜間は義歯の方は本人の希望に合わせて消毒も兼ねて預かっている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			3階 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人に合わせたトイレへの声掛けをし、本人がトイレで排泄する援助をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人個人に合わせて果物、乳製品、水分補給等食品の工夫や散歩、体操等に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望やケア上で必要と判断される場合には、随時、部分浴や入浴の支援をし柔軟な対応をしている。車椅子生活の方にも個浴の支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別対応によりその日のリズムに気付くようにし、安心のある休息への援助に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の処方薬について勉強している。また、かかりつけ医、グループホーム担当看護師に相談し、支援してもらっている。処方薬が変更となった時は特に気を付けて状態を見ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の趣味が活かせるよう作品をフロア内に展示している。菜園の水やりや収穫をしてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間を通して外出の機会を設けている。また、季節の催し物を見に出かけ地域の方とも触れ合っている。利用者代理人への問い合わせにより、親類の方との外出もしてもらっている。		



自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			3階 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物に出かけたときには本人の状態に合わせて支払いをしている。それぞれの方の状態に合わせて、家族の方にお金の所時の要・不要についても相談している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の状態に合わせて電話の利用をしている。年賀状・お便りも状態に合わせて出せるよう準備している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースの壁には季節に合わせて手作りの作品が掛けられている。思い出の写真や和歌の作品も飾られ落ち着いた空間となっている。また、野や庭の花を飾る事で季節感を感じられるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内をソファーや食卓で気の合った人と一緒に利用できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人の好きなものや使い慣れたものを持って来てもらっている。寝具等も本人の習慣にあわせたものになっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベッドの種類は医療用、木製ベッド、たたみ等にしている。浴室等一部車椅子対応となっていないが利用者御合わせた場所に補助手すりを設け安全に配慮している。		